

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-27

千島写真帖

北海道庁

(出版者 / Publisher)

北海道庁

(発行年 / Year)

1934

千島寫真帖



北方園拓

陸士題

昭和十年二月廿一日

交 鎮

千島概况附屬





コンパニイラント圖 (英國大使館員ゴクサー氏所藏原版による)

西紀一七八五年發行ニコラス・ウキツチン氏著
「北及東ノ韃靼」第三版挿入圖版

最上徳内畫像

いつの世にも變りなき黄金の魅力が動機となり、日歐交通の盛なる一時代を現出せる十三世紀末乃至十七世紀の初頭には、幾度か日本の東海にあると云はれる彼等の想像せる金島銀島への探險船が送られ、西紀一六四三年我が寛永二十年、和蘭より派遣せられたるフリースの率ゐる二艘の探險船はバタバヤを解纜し、日本の東海岸を北上し六月蝦夷地の襟裳岬を廻り根室灣に入り、遂に今の得撫島に碇泊し、こゝにコンパニイラントの名稱を附し丘上に十字架を建て、和蘭東印度會社の紋章VOCの年號を刻し紀念とせり。次いで彼等は樺太に達し、再び探提海峡に廻纜し普く金銀島を探し廻りしも、もとよりそれは實在の島にあらず、遂に斷念せしものなるも、この北海探險の結果、西歐の地理學界に頗る大なる影響を與へしことは云ふまでもなし。このコンパニイラントのスケッチは、當年の壯圖を不朽に止むる好紀念であり又歐羅巴に紹介されたる最初のものなり。

幸太夫及露人一行根室滞留圖 (東京市子爵松平定晴氏所藏)

伊勢の船頭幸太夫の一行のアレウト列島に漂着し、露人に助けられ遂にベテルブルグに達し、女皇に謁見せる事件は、日露交渉史上に大なる動機を與へたり。彼等の一行は、寛政四年露國特使ラクスマンに連れられて九月キイタツ場所根室に入港し、やがて翌年五月松前行迄八ヶ月間冬營することゝなれり。この圖は、當時幕府の老中頭として對露政策に重大なる關係を有する松平定信の遺篋より見出されたるものにして、テロシヤ人物并小屋内の圖と題し「愛嬌ある眼は支那人の如く暗く濁れることなく、鼻は長く鬚は屢之を剃れり。毛髪を發生のまゝに任せフランス風に理髮せる」幸太夫を中にして、この遠客の生活を珍らしげに寫しあり。

近藤重藏畫像

高田屋嘉兵衛書簡

高田屋嘉兵衛書簡

(神戸市武藏氏所藏)

商傑高田屋嘉兵衛文化九年八月探提島紗那より函館歸航の際、露將リコルドの軍艦に抑留され、堪察加に伴はれし事件は普く傳りあるも、この書翰は、當時弟金平等に宛て、心情を吐露せるものにして安積良齋の序、水戸烈公の賛歌を附し一卷となされあるものなり。書中一言の私事愁嘆に亘るなく「我者御上の既に御れんみんなに相成候事故、なにとて異國に参りよきつうじに出合掛合致し候は、夷地もおだやかに相成可申事も有之、いつ迄所々おさわかしても我國のためあしく候故、何分とらわれと相成候得共、命おしき事無之大じよぶにて掛合見可申積り」と云ひ「日本爲あしき事は致し不申、只天下ノためを存おり候事故、不はからひは致し不申候」とあり、天晴壯夫の佛を想はするものあり。



國後島乳香路より

望みたる茶々嶽

本島第一の高山にして海拔千
八百四十五米

同島「ソコボイ」の瀧

本島の東北部北岸にあり、源
を茶々嶽及「ルルイ」山に發し
林間より流下す、遠望すれば
恰も白帆の如く顯著なり



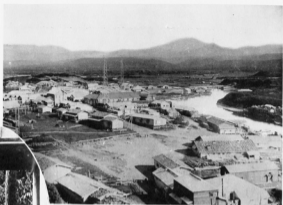
斜古丹港土人部落

明治十七年北千島居住の土人を移住せしめたるところに於て當時その數九十七人なりしも年歲減少し現在三十七人に過ぎず、寫眞はその居宅なり

色丹島遠望

本島は根室半島の北東凡そ四十哩にあり、東西凡そ二十八軒南北九軒半の長方形をなす全島色丹村一村よりなり戸數一六九、人口九五三、寫眞左方は斜古丹港にして島の北東端に位す、本港は天然の良灣形をなし風光明媚なり

斜古丹灣より南海岸に通する
道路附近



紗那村市街

樺提島西岸略中央に位す、全村戸數二七一、人口一九五六、警察署、根室區裁判所出張所、營林區署、測候所等諸官衙の所在地なり

シコタンマツ

落葉松の一種、方言クイマツ千島にのみ限り産するものにして色丹島樺提島に産す

寫眞は樺提島留別村年萌附近にして樹齡約二百年乃至三百年、樹高約十米

戸田亦太夫の墳墓

紗那本村の南西凡そ三軒有萌に在り。文化四年露人、船二艘を以て紗那に來寇す、時に幕吏及南部、津輕の藩兵紗那に在り、幕吏戸田亦太夫奮戰遂に利あらず、敗戦の國辱たるを恥ぢ、憤恨遣る方なく有萌に於て屠腹し果つ、亂後男戸田亦五郎本島に來り建墓せるものなり

留別村市街

樺提島西岸稍南部に位す、全村戸數四三三、人口二五四九、

別飛港

樺提島西海岸散布半島の東南隅に在り、紗那村に屬し鮭、鱈罐詰工場あり



擇提島

「ラツキベツ」の瀧

本島の北東端神威岳高山脈の東岸に盡くる所高さ百數十米の絶壁をなしその岬端に在り断崖より直に海中に落下しその高さ凡そ百三十米の大飛瀑なり

散布山の冬景

擇提島西海岸中央散布半島に在り、海拔千五百八十九米、容姿秀麗にして一名千島富士と稱す

「カモイワツカ」岬の記念標柱

擇提島の北東端薬取村内にあり、寛政の頃露人本島の備なきを覗ひ跳梁跋扈甚しかりしたため幕吏近藤重藏島中を巡檢して露人「イジュヨ」の建つるところの十字棒杭を倒し「大日本惠登呂府」の日本國標を建てし所にして、昭和三年御大禮記念として村にて建碑の議成り、翌年建立せるものなり

薬取村市街

本村は擇提島北東部に位す、全村戸數一一六、人口一三三七、鮭、鱒漁業盛なり

内保國有林

擇提島南西部留別村内にあり



内 岡 港

擇捉島西海岸紗那灣内に在り
紗那本村の北東約四軒に當る
東洋捕鯨會社事業場あり

擇捉島留別川鱈遡上の状況

昭和四年八月

内岡港東洋捕鯨會社事業場

留別川鱈捕獲場



得撫島遠望

山岳は二見山にして本島の南西部に在り、海拔千三百十九米

床丹灣

得撫島西海岸中央に位し、灣形西に開く、中央に床丹川注ぎ川口近くに農林省養狐場あり

得撫島の狐



武魯頓灣

新知島の北東端に位する天然の良灣にして四周山を繞らし恰も半月形をなす、灣奥に至る距離三哩に及ぶ大灣にして面積凡そ十三方杆、最深部二百四十米、其形狀より察すれば一大噴火口たりしもの、如し、寫眞右方は武魯頓崎、左方を日本崎と稱し灣口凡そ二百二十米あり、灣口を掘鑿すれば千島航路の避難港として最も適當なり、灣内に碇泊せるは農林省の巡視船新知丸なり

武魯頓灣奥の一部

近くに農林省養狐場あり

武魯頓灣口

東方武魯頓崎より西方日本崎を望む

寒地植物の密生せる

地帯の一部



松輪島芙蓉山

海拔千四百八十五米
本島は長十一杆、幅
六杆半あり、全島概
ね山岳よりなる

ダケカンバ

(新知島)

羅處和島の一部
本島は長十五杆餘
幅六杆半あり

ダケカンバ

千島笹 (計吐夷島)

捨子古丹島乙女灣奥

本島は長凡そ二十五杆、幅九杆
餘乃至一杆あり、瓢形の山岳島
なり。乙女灣は西岸にあり

ミヤマハンノキ
オホバシヨリマ

(計吐夷島)

宇志知島北島より
南島を望む

計吐夷島南浦より計
吐夷岳 (海拔千百七
十二米) 連峯を望む

本島は直徑凡そ十
杆の圓形島にして
全島山岳よりなる



春牟古丹島の一部

本島は三角形島にして
長凡そ十三秆幅凡そ八
秆餘

温禰古丹島の一部

本島は南北長凡そ四十
二秆半、幅七秆乃至十
六秆餘あり、寫眞は北
部根茂灣附近なり

鹿勤留島の一部

本島は南北長凡そ十秆
幅七秆餘あり、全島山
岳よりなる

チシマルリサウ

(色丹島)

ラシヨワコザツク

(羅處和島)

イハギキヨウ

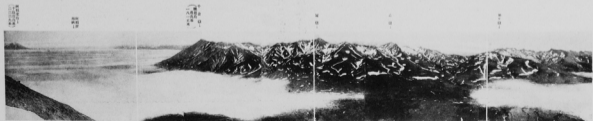
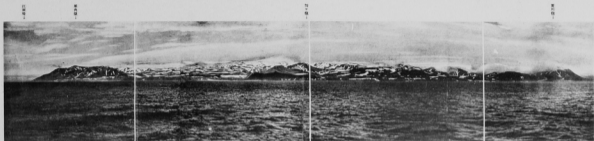
(計吐夷島)

コダマサウ

(松輪島)

シユムシユワタスゲ

(計吐夷島)



幌
筵
島
遠
望

後
嶺
嶽
頂
上
よ
り
望
め
る
幌
筵
島
及
阿
頼
度
島



志林規島

幌筵島の南西凡そ八哩にあり
東西の長凡そ四杆餘、幅三杆
餘、全島一山よりなり島頂海
抜七百五十一米

千倉嶽と其北麓

千倉嶽は幌筵島第一の高山に
して海拔千八百十五米、本島
の南西部西海岸にあり、後嶽
嶽と相對し巍然として雲表に
聳ゆ

後嶽嶽

幌筵島の南西部西海岸にあり
本島第二の高山にして海拔千
七百九十八米

千倉嶽遠望

右方は大硫黄山にして海拔千
五百三十米



撞鉢灣全景

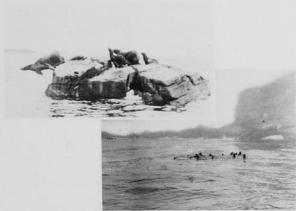
幌筵島東海岸略中央に位す、
東方に丸鼻と稱する岩岬突出
し西方に平島と稱する岩礁連
亘して灣形をなす、陸は比較
的平坦廣潤、海陸共漁業の根
據地たらしむるに適す

村上灣の一部

幌筵島の北東端にあり幌筵海
峽に臨む、灣形大ならざるも
小型船舶の碇繋に適す

加熊別灣の一部

幌筵島の西海岸略中央に位す
西方大後埼により良灣形をな
し、船舶の碇繋に適す



阿頼度島の遠望

本島は帝國の極北に位しその北端を最北埼と稱し、北緯五十度五十六分に在り。全島一高峰より成り、直徑凡そ十四杆の圓形島にして其頂上は海拔二千三百三十九米、津輕海峡以北邦土の最高峰なり。山容秀麗、遠望富士を海上に浮べたるが如し。

阿頼度島山頂の火口壁

阿頼度島海馬埼に於けるトド

阿頼度島の雪溪

幌筵島ラッコ岩に於けるトド



占守島國端埼

帝國の最東端東經百五十六度
三十分に位し、占守海峽東方
六哩を隔て堪察加南端ロバツ
カ埼に對す

占守島片岡に於ける

開鱈乾燥作業狀況

此附近は報效義會の根據地に
して今尙當時の建物現存する
ものあり、又學校、會長住宅
等の遺跡あり

占守島西岸天神岩漁場

占守島東岸尻沼漁場



明治二十六年報效義會創立
當時の會長郡司成忠大尉

郡司氏は萬延元年十一月十七日水戸幸田家の次男として江戸に生る、幼名力藏、明治五年海軍兵學寮に入寮、同十二年海軍少尉補、同十九年海軍大尉に任ぜらる。北方開拓に志し、自から進むて豫備役たらんことを請ひ、同二十六年許され、愈々千島拓殖經營のため同志を糾合し東西に奔走す、同二月恩賜金を拜受し又土方久元子爵より報效義會の命名を受く、而して同二十六年三月二十日東京灣を發し占守島に航し、同志六名と共に同島に越年す、翌二十七年召集せられ日清の役に從ひ柳樹屯の水雷隊に屬す、谷干城子爵より千島經營の重要なるを論され、招召解除願を提出し同二十八年四月許さる、次いで二十九年第二回の移住として同志五十六名を片岡灣に渡島せしむ、爾來千島の漁業に當り或は堪察加沿岸の漁業を調査し傍ら同志の増加を計る等經營辛苦を極めたるも、當時交通の不便と漁獲物の低價等のため業績振はず、同三十七年五月ベトロバウルスクに拘禁せらる、等のことあり爲に會員大多數の引揚げとなり、戦後専ら堪察加漁業のため奔走す。大正十三年八月叙從六位、同月十三日相州小田原にて逝去す、享年六十五。

報效義會員の墳墓

占守島片岡灣は報效義會の根據地たりしところにして、當時會員この地に斃れたるもの三十有餘人、その墓は灣の東方郡司ヶ丘にあり、墓標荒廢、墓誌識別し難し。

志士の碑(右ハ表面
左ハ裏面)

片岡灣奥の丘上にあり、郡司成忠氏本碑を建設せんとし明治四十年横濱に於てその製作を了りたるも志を果さず、後帝國測量艦により運搬建設せられたるものなり。

占守島別飛の漁舎と

別所佐吉氏

別所氏は明治二十九年報效義會員第二回目の渡島者五十六名の一員として來島し、今尙この地に止まる唯一の會員なり、同氏は文久三年生れ尙健康にして、その息次郎藏氏と共に別飛川の鱒漁に従事す。片岡灣頭丘陵右は郡司ヶ丘左は別所ヶ丘と云ひ、當時の壯圖を永遠に記念するものなり。本漁舎は明治三十年鱒漁業のため報效義會の一分舎として建てたるものなり。



エゾノクマガヒサウ

(羅處和島)

チシマヒナケシ

(新 知 島)

チシマヒカゲノカツラ

(新 知 島)

ユウバリチドリ

(磨勘留島)

北千島沖取漁業の景

昭和八年の産額二百五十七万
八千六百圓

北海の流氷状況

昭和九年二月十五日印刷
昭和九年二月二十七日發行

北
海
道
廳

札幌市大通西三丁目

印刷所
會社
中西寫真製版印刷所

